

VMware Player 2.5

スタートガイド



VMware Player 2.5
アイテム : JA-000043-00

当社 Web サイトにて最新の技術文書をご覧ください。

<http://www.vmware.com/jp/support/>

当社 Web サイトでは最新の製品情報も提供しています。

このマニュアルに関してご意見等ございましたら、下記アドレス宛お送りください。

docfeedback@vmware.com

© 2008 VMware, Inc. All rights reserved. 本ソフトウェアは、米国特許 (6,397,242、6,496,847、6,704,925、6,711,672、6,725,289、6,735,601、6,785,886、6,789,156、6,795,966、6,880,022、6,944,699、6,961,806、6,961,941、7,069,413、7,082,598、7,089,377、7,111,086、7,111,145、7,117,481、7,149,843、7,155,558、7,222,221、7,260,815、7,260,820、7,269,683、7,275,136、7,277,998、7,277,999、7,278,030、7,281,102、7,290,253 および 7,356,679) により保護されています。特許出願中。

VMware、VMware ボックスロゴとデザイン、Virtual SMP および VMotion は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

本書について	5
VMware Player スタート ガイド	7
VMware Player について	7
VMware Player のインストールと実行	9
VMware Player のアンインストール	12
VMware Player でサポートされるホスト OS およびゲスト OS	13

本書について

ここでは、『VMware Player スタート ガイド』について説明し、VMware[®] テクニカル サポートおよび教育リソースへのリンクを提供します。

対象読者

本書は、これから VMware Player 2.5 をインストールまたは使用する方を対象としています。VMware Player 2.5 のユーザーには、仮想マシンまたは仮想アプライアンスを実行するユーザーも含まれます。ソフトウェア ベンダまたは同僚から提供された構築済みアプリケーション環境をダウンロードして、安全に実行できます。

ドキュメントのフィードバック

ドキュメントに関するご提案をお待ちしております。コメントがございましたら、次のアドレスにフィードバックをお送りください。

docfeedback@vmware.com

テクニカル サポートと教育リソース

次のテクニカル サポート リソースをご利用いただけます。このマニュアルおよび他のドキュメントの最新バージョンは、次の場所で提供されています。

<http://www.vmware.com/jp/support/pubs>

オンラインおよび電話サポート

テクニカル サポート リクエストを提出するには、オンライン サポートから、ご使用の製品と契約情報を参照し、ご使用の製品を登録してください。

<http://www.vmware.com/jp/support/> を参照してください。

適切なサポート契約がお済みの場合、早急な対応が必要な重要度 1 の問題については、電話サポートをご利用ください。

http://www.vmware.com/jp/support/phone_support.html を参照してください。

サポート提供内容

VMware が提供するサポートがお客様のビジネス ニーズに合うことをご確認ください。<http://www.vmware.com/jp/support/services> を参照してください。

VMware プロフェッショナル サービス

VMware 教育サービスのコースでは、広範な実践形式の演習、ケース スタディ例、および実務で参照できるように作られたコース資料が提供されます。コースは、オンサイト、クラスルーム、およびオンラインでご利用頂けます。オンサイトパイロットプログラムおよび実装のベストプラクティスとして、VMware コンサルティングサービスでは、ご使用の仮想環境の評価、計画、構築、および管理を支援するサービスを提供しています。エデュケーションクラス、認証プログラムおよびコンサルティングサービスの詳細については、

<http://www.vmware.com/jp/services/> を参照してください。

VMware Player スタートガイド

この章では次のトピックについて説明します。

- [VMware Player について \(P. 7\)](#)
- [VMware Player のインストールと実行 \(P. 9\)](#)
- [VMware Player のアンインストール \(P. 12\)](#)
- [VMware Player でサポートされるホスト OS およびゲスト OS \(P. 13\)](#)

VMware Player について

VMware Player は無料のデスクトップ アプリケーションであり、以下の機能を実行できます。

- Windows または Linux PC 上で仮想マシンを実行する。
- 仮想化ソフトウェアに費用をかけることなく仮想マシンを実行し、仮想マシンで提供されるセキュリティ、柔軟性、および移植性を容易に活用できるようにする。
- 仮想マシンでホスト デバイス (CD ドライブ、DVD ドライブなど) を使用する。

VMware Player では、VMware Workstation、ESX Server、VMware Server、VMware Fusion、および GSX Server で作成された構成済み仮想マシンを実行するための直感的なユーザー インターフェイスを使用できます。Windows ホストマシンでは、VMware Player を使用することで、Microsoft Virtual PC と Microsoft Virtual Server の仮想マシン、および Symantec Backup Exec System Recovery (旧 LiveState Recovery) のシステム イメージを開いて実行できます。VMware Player では、仮想アプライアンスをダウンロードし、OVF (Open Virtualization Format) ファイルや OVA (Open Virtual Appliance) ファイルにアクセスすることもできます。VMware Player と互換性のある仮想マシンおよびシステム イメージについては、[「互換性のある仮想マシンおよびシステム イメージ \(P. 9\)」](#)を参照してください。

VMware Player を使用すると、VMware 製品を持っていない同僚、パートナー、および顧客も VMware 仮想マシンにアクセスできます。VMware Player をダウンロードすれば、誰でも互換性のある仮想マシンを開いて実行できます。

注意 VMware Player は、VMware Player エンド ユーザー ライセンス契約の諸条件の元でその使用が許可されます。VMware は、VMware Player に関するサポートを一切提供していません。VMware Player は、VMware の Web サイトからダウンロードできます。

また、VMware Player で使用する仮想アプライアンスも、VMware Web サイトの Virtual Appliance Marketplace でダウンロードできます。VMware Player のインストール方法については、[「VMware Player のインストールと実行 \(P. 9\)」](#)を参照してください。

自己解決のためのリソースについては、VMware Web サイトの VMware デスクトップ仮想化製品に関するセクションの VMware Player FAQ を参照してください。また、VMware Web サイトの VMware Technology Network (VMTN) セクションにある VMware Player ディスカッション フォーラムに参加することもできます。VMTN のメンバは、このフォーラムで VMware の製品、サービス、製品サポートの問題に関する情報、質問、コメントを交換できます。

VMware Player の用途

構築済みアプリケーションの使用と評価

VMware Web サイトの Virtual Appliance Marketplace セクションで提供される構築済みアプリケーション環境をダウンロードして、仮想マシンで安全に実行できます。Virtual Appliance Marketplace では、Oracle、Red Hat、Novell、BEA、SpikeSource、IBM、MySQL などの主要ソフトウェア ベンダから提供されている仮想マシン、および人気の高いオープン ソース ソフトウェアを使用して構成済みの仮想マシンが提供されています。

ソフトウェア ディストリビューションの変換

仮想マシン上にソフトウェアを構成することにより、ソフトウェアの配布を簡素化できます。セットアップの手間をかけずに、エンド ユーザーが即座に製品を利用できます。VMware Player は、評価版コピーやベータ ソフトウェアの配布に最適です。完全な作業環境を備えた複雑で高機能のアプリケーションを、VMware Player を持つユーザーであれば誰でも使用可能な仮想マシン内にパッケージ化できます。

同僚とのコラボレーション

VMware Player により、仮想マシンで顧客シナリオを共有してサポート、開発、および検証を容易に行うことができます。

VMware Player の機能

VMware Player は仮想マシンを実行するための無料のデスクトップ アプリケーションです。Workstation 6.5 などの他の VMware 製品が備える仮想マシン作成機能は、VMware Player には含まれません。

VMware Player では以下の機能を使用できます。

- ユニティ モードに切り替えて、アプリケーション ディレクトリをホストのデスクトップに表示します。
- Linux では、バンドル ベースの VMware インストーラを使用すると、製品を 1 ステップでインストールできます。
- Windows と Linux ホストの両方で、編集中の仮想マシンをサスペンドできます。
- フルスクリーン モードでは、パワーオンされている仮想マシンからほかの仮想マシンへ切り替えることができます。
- スマート カードは試験的にサポートされています。
- 仮想マシンでのホスト デバイス (USB デバイスなど) の接続/切断および使用。
- VMware Player の環境設定 (デバイスの表示方法など)。
- 仮想マシンに割り当てられているメモリ容量の変更。

仮想マシンに VMware Tools をインストールすると、次の機能を使用できます。

- Linux または Windows ホストと Linux、Windows、または Solaris ゲストの間のファイルのドラッグ アンド ドロップ。Linux ホスト、Linux ゲスト、および Solaris ゲストが、X Window システムを実行している必要があります。
- Windows または Linux ホストと Windows、Linux、または Solaris ゲストの間のテキストおよびファイルのコピーと貼り付け。

注意 VMware Player のインスタンスは複数開くことができます。ただし、VMware Player の各インスタンスでは一度に 1 つの仮想マシンしか実行できません。

これらの機能を使用する際の手順については、[VMware Player] - [ヘルプ] を選択し、VMware Player のオンライン ヘルプを参照してください。

VMware Player 向けのホスト システム要件

VMware Player をインストールおよび使用するためのホスト システムの要件は、以下のとおりです。

- x86 または x86-64 互換性のある標準 PC
- プロセッサ速度 733MHz 以上

- メモリ 512 MB 以上 (2GB を推奨)。ホスト OS、仮想マシン、およびホストとゲスト上のアプリケーションを実行するために十分なメモリが必要です。
- ハード ディスク 各ゲスト OS について 1GB 以上の空きディスク領域が推奨されます。

VMware Player のインストールに必要なディスク領域は、Windows では約 250MB、Linux では約 200MB です。インストール完了後にインストーラを削除して、ディスク領域を増やすことができます。

サポートされるホスト OS およびゲスト OS の詳細については、[\[VMware Player でサポートされるホスト OS およびゲスト OS \(P. 13\)\]](#) を参照してください。

互換性のある仮想マシンおよびシステム イメージ

VMware Player で互換性のある仮想マシンとシステム イメージは以下のとおりです。

VMware 仮想マシン	VMware Player では、VMware Workstation 4 以降、GSX Server 3.x、VMware Server、ESX Server 2.5 以降で作成された仮想マシンを実行できます。Workstation 4 の仮想マシンは、レガシー モードで実行されます。Workstation 4 より前のバージョンで作成された仮想マシンは、別の VMware 製品を使用してアップグレードしないと VMware Player で実行できません。
Microsoft Virtual PC および Virtual Server 仮想マシン	Windows ホストの VMware Player では、Microsoft Virtual PC および Virtual Server 仮想マシンを実行できます。Virtual PC 仮想マシンを VMware Player で開くと、VMware Player では VMware 互換の構成ファイル (.vmx 拡張子) が作成され、元の Virtual PC 構成ファイル (.vmc 拡張子) はそのまま保持されます。VMware 互換の仮想マシンは、元の Virtual PC 構成ファイルを変更することなく保存できます。
Symantec Backup Exec System Recovery システム イメージ	Windows ホストの VMware Player では、Symantec Backup Exec System Recovery (旧 Symantec LiveState Recovery) で作成されたシステム イメージを実行できます。Backup Exec System Recovery システム イメージを VMware Player で開くと、VMware Player では VMware 互換の構成ファイル (.vmx) が作成され、元の Backup Exec System Recovery システム イメージ ファイル (.sv2i) はそのまま保持されます。VMware 互換の仮想マシンは、元の Virtual PC 構成ファイルを変更することなく保存できます。

Virtual Symmetric Multiprocessing

VMware Player では、Virtual Symmetric Multiprocessing (SMP) が試験的にサポートされています。この機能を使用すると、VMware Player を使用して、少なくとも 2 つの論理プロセッサを備える任意のホストマシン上の仮想マシンに、2 つの仮想プロセッサを割り当てることができます。

複数の論理プロセッサを備えるとみなされるものを以下にすべて示します。

- 複数の物理 CPU を備えるマルチプロセッサ ホスト
- マルチコア CPU を備えるシングルプロセッサ ホスト
- ハイパースレッドが有効になっているシングルプロセッサ ホスト

注意 ハイパースレッドのユニプロセッサ ホストでは、仮想 SMP を使用する仮想マシンのパフォーマンスが標準以下になる場合があります。

3 つ以上の仮想プロセッサを備えるゲストは、VMware Player ではサポートされていません。ただし、電源を入れて、複数のデュアルプロセッサ仮想マシンを同時に実行することはできます。

VMware Player のインストールと実行

VMware Player のインストールの説明は、製品 CD を使用した Windows ホストおよび Linux ホストへのインストールに関するものです。製品 CD がお手元にならない場合は、VMware Web サイトから VMware Player をダウンロードしてください。

Windows ホストへの VMware Player のインストール

開始する前に

自動再生を有効にしているときに CD から VMware Player をインストールする場合は、CD-ROM ドライブに CD を挿入した際に表示される指示に従って操作します。

自動再生を有効にしていないときに CD から VMware Player をインストールする場合は、CD の Windows ディレクトリ内の **VMware-player-<xxxxx>.exe** インストーラ ファイルをダブルクリックします。ファイル名の <xxxxx> はバージョンとビルド番号を表します。

ソフトウェアをすでにダウンロードしている場合は、インストールを行います。CD にある Windows ディレクトリではなくインストーラ ファイルを保存したディレクトリからインストールを実行します。

- 1 開始画面で [次へ] をクリックします。
- 2 (オプション) [インストール先フォルダ] ページで VMware Player ファイル用に別の場所を選択して、[次へ] をクリックします。
- 3 (オプション) [構成ショートカット] ページでショートカットの選択をオフにして、[次へ] をクリックします。
- 4 [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

VMware Player および選択したショートカットがホスト マシンにインストールされます。

- 5 [完了] をクリックします。

バンドルによる Linux ホストへの VMware Player のインストール

ソフトウェアをすでにダウンロードしている場合は、インストールを行います。CD にある Linux ディレクトリではなくインストーラ ファイルを保存したディレクトリからインストールを実行します。

注意 VMware Player のインストール時にホストオンリー ネットワークを有効にしておかないと、仮想マシンでブリッジ ネットワークとホストオンリー ネットワークの両方を使用することができません。

- 1 VMware Player の実行時に使用する予定のユーザー名を使用して、Linux ホストにログインします。
- 2 初期のインストール手順を実行するために、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行して root に切り替えます。

su

- 3 ダウンロードしたファイルからインストールを行う場合は、VMware Player の CD-ROM をマウントします。

◆ **VMware-Player-e.x.p-<xxxx-xxxx>.i386.bundle**

または、

◆ **VMware-Player-e.x.p-<xxxx-xxxx>.x86_64.bundle**

VMware-Player-e.x.p-<xxxxx>.<アーキテクチャ>.bundle がインストール ファイルです。ファイル名の <xxxx-xxxx> はバージョンとビルド番号を表します。

- 4 インストール ファイル (.bundle) を指定してシェルを実行します。

sh VMware-Player-e.x.p-<xxxx-xxxx>.<アーキテクチャ>.bundle

- 5 EULA に同意して続行します。

- 6 デスクトップ プログラムのメニューから VMware Player を開くか、または端末で **vmplayer** を実行し、カーネル モジュール更新機能を起動して、カーネルのインストールと構成を行います。

コマンドラインインストールオプションの使用

コマンドラインインストールオプションを使用して、Linux ホストに Workstation をインストールすることもできます。

このオプションを使用するには、`root` としてログインする必要があります。インストール プロセスが終了したら、`root` アカウントをログアウトします。

GUI ベースの VMware Player インストーラが失敗した場合は、端末で `--console` コマンドを使用してインストール ファイルを実行してください。以下では、一般的なコマンドラインインストール オプションについて説明します。

<code>--gtk</code>	GUI ベースの VMware インストーラを開きます。デフォルトのオプションです。
<code>--regular</code>	インストールのオプション手順 (Eclipse 用統合仮想デバッガのディレクトリパスなど) を表示します。デフォルトのオプションです。
<code>--console</code>	インストールに端末を使用できるようにします。
<code>--custom</code>	インストール中に、バイナリ ファイル、ライブラリ ファイル、マニュアル ファイル、ドキュメント ファイル、および初期化スクリプトのすべてのディレクトリパスを表示します。
<code>--required</code>	EULA のみを開き、続けて VMware Player をインストールします。
<code>--ignore-errors</code>	ファイルをアンインストールし、アンインストール中の構成エラーを無視します。

RPM による Linux ホストへの VMware Player のインストール

ソフトウェアをすでにダウンロードしている場合は、インストールを行いますが、CD にある Linux ディレクトリではなくインストーラ ファイルを保存したディレクトリからインストールを実行します。

注意 VMware Player のインストール時にホストオンリー ネットワークを有効にしておかないと、仮想マシンでブリッジ ネットワークとホストオンリー ネットワークの両方を使用することができません。

- 1 VMware Player の実行時に使用する予定のユーザー名を使用して、Linux ホストにログインします。
- 2 初期のインストール手順を実行するために、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行して `root` に切り替えます。

su

- 3 インストール ファイルを指定して RPM を実行します。

rpm -Uhv VMware-<xxxx>.rpm

VMware-<xxxx>.rpm がインストール ファイルです。ファイル名の <xxxx> はバージョンとビルド番号を表します。

- 4 コマンドラインから構成プログラムを実行します。

vmware-config.pl

- 5 プロンプトでデフォルト値を受け入れます。

構成が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、構成プログラムを再び実行します。

- 6 操作が完了したら、`root` アカウントをログアウトします。

exit

VMware Player の起動

- 1 VMware Player を開くには、以下のように操作します。

Windows の [スタート] - [プログラム] メニュー、または Linux の X Window セッションの対応するプログラムメニューから [VMware Player] を選択します。

- Windows の場合は、[スタート] - [ファイル名を指定して実行] コマンドメニューから **vmplayer** と入力します。また、コマンド インタープリタで **<path>%vmplayer.exe** と入力することも可能です。このとき、**<path>** はシステム上での VMware Player 実行可能ファイルのパスを表します。
- Linux コマンドラインから、**<path>/vmplayer** と入力します。このとき、**<path>** はシステム上での VMware Player 実行可能ファイルのパスを表します。バックグラウンドで VMware Player を実行する場合は、**<path>/vmplayer &** と入力します。

- 2 実行する仮想マシンの構成ファイルを参照します。

また、最近使用した仮想マシンを選択したり、Virtual Appliance Marketplace から仮想アプライアンスをダウンロードしたりできます。

参照するときに [ファイルの種類] フィールドを使用すると、フィルタを適用してファイルを表示できます。

VMware Player では、VMware 構成ファイル (.vmx)、OVF、および OVA ファイルを開くことができます。Windows 上の VMware Player では、Microsoft Virtual PC および Virtual Server ファイル (.vmc)、および Symantec Backup Exec System Recovery システム イメージ (.sv2i) を開くことができます。

- 3 仮想マシン構成ファイルを選択して、[開く] をクリックします。

また、構成ファイルを右クリックしてコンテキスト メニューを開き、ここから VMware Player で仮想マシンを開くことも可能です。

VMware Player の終了

- ◆ 以下のいずれかを行います。

- a 仮想マシン上のゲスト OS をシャットダウンします。

ゲスト OS がシャットダウンすると、VMware Player が終了します。

- b Windows の場合は [VMware Player] - [終了] を選択します。Linux の場合は [VMware Player] - [Quit] を選択します。

[VMware Player] - [環境設定] に指定した終了時の動作設定に応じて、仮想マシンがサスペンドまたはパワーオフされます。

VMware Player のアンインストール

以下のセクションでは、Windows および Linux ホストから VMware Player をアンインストールする方法について説明します。

Vista 以外の Windows ホスト上の VMware Player のアンインストール

- 1 [コントロール] パネルで [プログラムの追加と削除] を開きます。
- 2 VMware Player のエントリを選択して [削除] をクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従います。

Windows Vista ホスト上の VMware Player のアンインストール

- 1 [スタート] - [コントロール パネル] - [プログラム] - [プログラム と 機能] - [プログラムのアンインストール] を選択します。
- 2 [VMware Player] を選択して [アンインストール] をクリックします。

Linux ホストでバンドルとしてインストールした VMware Player の アンインストール

- ◆ 次のコマンドを入力してシステムから VMware Player を削除します。

```
vmware-uninstall
```

Linux ホストで RPM によりインストールした VMware Player の アンインストール

- 1 次のコマンドを入力して VMware Player のビルド番号を検索します。

```
rpm -qa | grep VM
```

- 2 次のコマンドを入力してシステムからソフトウェアを削除します。<xxxx-xxxx> はバージョンとビルド番号を表します。

```
rpm -e VMware<xxxx-xxxx>
```

VMware Player でサポートされるホスト OS およびゲスト OS

「ホスト」と「ゲスト」とは、物理マシンおよび仮想マシンを指す用語です。

ホスト VMware Player ソフトウェアをインストールした物理コンピュータをホスト マシンと呼び、そのオペレーティング システムをホスト OS と呼びます。

ゲスト 仮想マシン内で実行するオペレーティング システムをゲスト OS と呼びます。

サポートされるホスト OS

VMware Player は、Windows と Linux の両方のホスト OS で利用できます。

Windows ホスト OS

VMware Player は、32 ビットおよび 64 ビットの Windows ホスト OS をサポートしています。

表 1. Windows ホスト OS

プロセッサ タイプ	OS のエディション
32 ビット	Windows Vista Enterprise Edition、SP1
	Windows Vista Business Edition、SP1
	Windows Vista Home Basic and Premium Editions、SP1
	Windows Vista Ultimate Edition、SP1、SP3
	記載のバージョンはサービス パックを適用しなくてもサポートされます。
	Windows Server 2003 Standard Edition、SP1
	Windows Server 2003 Web Edition、SP1
	Windows Server 2003 Small Business Edition、SP1
	Windows Server 2003 Enterprise Edition、SP1
	Windows Server 2003 R2、SP2
Windows XP Home Edition、SP2 以降のサービス パック	
Windows XP Professional、SP2 以降のサービス パック	
Windows 2000 Server、SP4	
Windows 2000 Professional、SP4	
Windows 2000 Advanced Server、SP4	

表 1. Windows ホスト OS (続き)

プロセッサタイプ	OSのエディション
64 ビット	Windows Vista Enterprise Edition、SP1 Windows Vista Business Edition、SP1 Windows Vista Home Basic and Premium Editions、SP1 Windows Vista Ultimate Edition、SP1 記載のバージョンはサービス パックを適用しなくてもサポートされます。
	Windows Server 2003 x64 Edition、SP1 Windows Server 2003 x64 Edition R2 SP2
	Windows XP Professional x64 Edition、SP1 以降のサービス パック

Linux ホスト OS

VMware Player は、ホスト OS として次の 32 ビットおよび 64 ビットの Linux ディストリビューションおよびカーネルをサポートしています。この要件を満たさないシステムでは VMware Player が動作しないことがあります。

新しく Linux カーネルやディストリビューションがリリースされると、当社では当該ホスト プラットフォームにおける動作の安定性と信頼性の確保のために製品の修正とテストを行います。VMware は新しいカーネルやディストリビューションへのサポートを迅速に提供するためにあらゆる努力を行いますが、下記のリストに該当カーネルやディストリビューションが追加されていない限り、VMware 製品での使用はサポートされません。最新の構築済みモジュールについては、VMware Web サイトのダウンロード エリアをご覧ください。

表 2. Linux ホスト OS

プロセッサタイプ	OS エディション
32 ビット	Asianux Server 3
	CentOS 5.2 CentOS 5.1 CentOS 5.0
	Mandriva Corporate Desktop 4.0 Mandriva Corporate Server 4.0
	Oracle Enterprise Linux 5.2 Oracle Enterprise Linux 5.1 Oracle Enterprise Linux 5.0
	Red Hat Enterprise Linux 5.2 WS Red Hat Enterprise Linux 5.2 AS、ES Red Hat Enterprise Linux 5.1 WS Red Hat Enterprise Linux 5.1 AS、ES Red Hat Enterprise Linux 5.0
	Red Hat Enterprise Linux 4.7 Red Hat Enterprise Linux 4.6 Red Hat Enterprise Linux WS 4.5 (旧称 4.0 アップデート 5) Red Hat Enterprise Linux AS 4.0、アップデート 1、2、3、4 Red Hat Enterprise Linux ES 4.0、アップデート 1、2、3、4 Red Hat Enterprise Linux WS 4.0、アップデート 1、2、3、4
	SUSE Linux Enterprise Server 10 SP1 SUSE Linux Enterprise Server 9、SP1、SP2、SP3、SP4 SUSE Linux Enterprise Desktop 10、SP1、SP2 記載のバージョンはサービス パックを適用しなくてもサポートされます。
	openSUSE 10.3 (試験的) openSUSE 10.2 (旧称 SUSE Linux 10.2)

表 2. Linux ホスト OS (続き)

プロセッサタイプ	OS エディション
	Ubuntu Linux 8.04 Ubuntu Linux 7.10 Ubuntu Linux 7.04 Ubuntu Linux 6.10 Ubuntu Linux 6.06
64 ビット	Asianux Server 3 CentOS 5.2 CentOS 5.1 CentOS 5.0 Mandriva Corporate Desktop 4.0 Mandriva Corporate Server 4.0 注 : 64 ビット Mandriva ホストでは、いくつかの 32 ビット互換ライブラリが必要です。具体的には、32 ビットの glibc 、 X11 、および libXtst.so が必要になります。 Oracle Enterprise Linux 5.2 Oracle Enterprise Linux 5.1 Oracle Enterprise Linux 5.0 Red Hat Enterprise Linux 5.2 WS Red Hat Enterprise Linux 5.2 AS、ES Red Hat Enterprise Linux 5.1 WS Red Hat Enterprise Linux 5.1 AS、ES Red Hat Enterprise Linux 5.0 Red Hat Enterprise Linux 4.7 Red Hat Enterprise Linux 4.6 Red Hat Enterprise Linux 4.5 (旧称 4.0 アップデート 5) Red Hat Enterprise Linux AS 4.0、アップデート 3、4 Red Hat Enterprise Linux ES 4.0、アップデート 3、4 Red Hat Enterprise Linux WS 4.0、アップデート 3、4 Red Hat Enterprise Linux AS 3.0、ストック 2.4.21、アップデート 2.4.21-15、6、7、8 Red Hat Enterprise Linux ES 3.0、ストック 2.4.21、アップデート 2.4.21-15、6、7、8 Red Hat Enterprise Linux WS 3.0、ストック 2.4.21、アップデート 2.4.21-15、6、7、8 SUSE Linux Enterprise Server 10、SP1 SUSE Linux Enterprise Server 9、SP1、SP2、SP3、SP4 SUSE Linux Enterprise Desktop 10、SP1、SP2 記載のバージョンはサービス パックを適用しなくてもサポートされます。 openSUSE 10.3 openSUSE 10.2 (旧称 SUSE Linux 10.2) Ubuntu Linux 8.04 Ubuntu Linux 7.10 Ubuntu Linux 7.04 Ubuntu Linux 6.10 Ubuntu Linux 6.06 注 : 64 ビット Ubuntu 6.x ホストでは、いくつかの 32 ビット互換ライブラリが必要です。具体的には、32 ビットの glibc および X11 が必要になります。

サポートされるゲスト OS

VMware は、新しいゲスト OS および現在サポート対象のオペレーティング システムの新しいバージョンやアップデートについても、サポートを拡張しています。特定のオペレーティング システムでサポートされるバージョン、サービス パック、アップデートなど、対応ゲスト OS の最新のリストについては、VMware Web サイトのドキュメント セクションにある『VMware ゲスト OS インストール ガイド』を参照してください。

このインストール ガイドでは、一般的なゲスト OS のインストールについても解説しています。『VMware ゲスト OS インストール ガイド』には VMware Player が掲載されていませんが、VMware Workstation 6.5 の情報が VMware Player 2.5 にも適用されます。リストに記載されていないオペレーティング システムは、仮想マシンではサポートされません。

表 3. ゲスト OS

プロセッサタイプ	OSのエディション
32 ビット Windows	Windows Vista Home Basic and Premium
	Windows Vista Business
	Windows Vista Enterprise
	Windows Vista Ultimate
	(現時点では Aero および 3D 機能には対応していません)
	Windows Server 2008 Standard Edition、Hyper-V なし
	Windows Server 2008 Datacenter Edition、Hyper-V なし
	Windows Server 2008 Enterprise Edition、Hyper-V なし
	(現時点では Aero および 3D 機能には対応していません)
	Windows Server 2003 Standard Edition
	Windows Server 2003 Small Business Edition
	Windows Server 2003 Web Edition
	Windows XP Professional
	Windows XP Home Edition
	Windows PE
	Windows RE
	Windows 2000 Professional
	Windows 2000 Server
	Windows 2000 Advanced Server
	Windows NT 4.0 Workstation SP6
Windows NT 4.0 Server SP6	
Windows NT 4.0 Terminal Server Edition SP6	
Windows Me	
Windows 95	
Windows for Workgroups	
64 ビット Windows	Windows Vista Home Basic and Premium
	Windows Vista Business
	Windows Vista Enterprise
	Windows Vista Ultimate
	(現時点では Aero および 3D 機能には対応していません)
	Windows Server 2008 x64 Standard Edition、Hyper-V なし
	Windows Server 2008 Datacenter x64 Edition、Hyper-V なし
	Windows Server 2008 Enterprise x64 Edition、Hyper-V なし
(現時点では Aero および 3D 機能には対応していません)	
Windows Server 2003 x64	
Windows Server x64	

表 3. ゲスト OS (続き)

プロセッサタイプ	OSのエディション
	Windows XP Professional x64
	Windows PE x64
	Windows RE x64
32 ビット Linux	Asianux Server
	CentOS
	Mandrake Linux
	Mandriva Linux
	Mandriva Corporate Desktop
	Mandriva Corporate Server
	Novell Linux Desktop
	Oracle Enterprise Linux
	Red Hat Linux
	Red Hat Enterprise Linux
	Red Hat Enterprise Linux Advanced Server (AS)
	Red Hat Enterprise Linux Enterprise Server (ES)
	Red Hat Enterprise Linux Workstation
	Red Hat Enterprise Linux Desktop、Workstation Option あり/なし
	Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform、Workstation Option あり/なし
	SUSE Linux
	openSUSE Linux
	SUSE Linux Enterprise Server
	SUSE Linux Enterprise Desktop
	Turbolinux Server
	Turbolinux Enterprise Server
Turbolinux Workstation	
Turbolinux Desktop	
Ubuntu Linux	
64 ビット Linux	Asianux Server
	CentOS
	Mandriva Linux
	Mandriva Corporate Desktop
	Mandriva Corporate Server
	Oracle Enterprise Linux
	Red Hat Enterprise Linux
	Red Hat Enterprise Linux Advanced Server (AS)
	Red Hat Enterprise Linux Enterprise Server (ES)
	Red Hat Enterprise Linux Workstation
	Red Hat Enterprise Linux Desktop、Workstation Option あり/なし
	Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform、Workstation Option あり/なし
	SUSE Linux
	openSUSE Linux
	SUSE Linux Enterprise Server
	SUSE Linux Enterprise Desktop
	Turbolinux Server

表 3. ゲスト OS (続き)

プロセッサタイプ	OSのエディション
	Ubuntu Linux
32 ビット Novell NetWare	NetWare
32 ビット Novell Open Enterprise Server	32 ビット Open Enterprise Server
32 ビット FreeBSD	32 ビット FreeBSD
	注意 FreeBSD 4.0 ~ 4.3 で 2GB を超える SCSI 仮想ディスクを使用すると、ゲスト OS が起動しません。この問題を回避する方法については、『VMware ゲスト OS インストール ガイド』を参照してください。
64 ビット FreeBSD	64 ビット FreeBSD
32 ビット Sun	32 ビット Solaris x86
	Sun Java Desktop System (JDS)
64 ビット Sun	64 ビット Solaris x86
Microsoft MS-DOS	MS-DOS

64 ビット ゲスト OS 対応プロセッサ

VMware Player は、以下のプロセッサを搭載するホスト マシン上で実行される 64 ビット ゲスト OS の仮想マシンをサポートしています。

- AMD Athlon 64 のリビジョン D 以降、Opteron、Turion 64、Sempron
- EM64T および Intel Virtualization Technology を備えた Intel Pentium 4 および Core 2 プロセッサ

VMware Player は、サポートされる 64 ビット プロセッサを搭載するホスト マシン上の 64 ビット ゲスト OS の仮想マシンのみをサポートしています。64 ビット ゲスト OS の仮想マシンをパワーオンすると、VMware Player が内部確認を行います。ホスト CPU がサポートされていない 64 ビット プロセッサである場合は、仮想マシンをパワーオンできません。

さらに、VMware が提供するスタンドアロンユーティリティを利用することで、VMware Player を使用せずに、ホスト CPU が 64 ビット ゲスト OS の VMware Player 仮想マシンに対応しているかどうかを確認できます。64 ビット プロセッサ検査ユーティリティは、VMware Web サイトのダウンロード ページからダウンロードできます。